

第3期 平成30年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第1回住宅部会 議事概要

日 時 平成30年6月22日（金）9:30～11:30

場 所 区役所本庁舎3F 302会議室

出席委員 稲葉委員、渡邊委員、金（相）委員、高委員、シュレスタ委員、江副委員、盛委員、
李委員、平野委員、植木委員、竹内委員、澤田委員、船山委員 13名

欠席委員 毛受委員、張委員、イーイーミン委員 3名

1 開会

2 審議結果報告書（案）について

- ・日本人でも働くことを目的に上京し、短期間で地元に戻る人は多くいる。働くことを目的に来日し、短期間で母国に帰ることを否定的には言えない。そういった人も含めて、どのようにコミュニケーションをとりながら同じ地域で暮らせるか考える必要がある。
- ・国によっては留学生として来日する際の入国審査基準が厳しいところがある。そういった国から来日するには母国で日本語学校に通っている場合が多いため、現地校や留学エージェントを通じて情報提供したい。
- ・外国人への賃貸を躊躇する背景事情の部分は、事実なのか、誤解や印象によるものなのかを、読み手に誤解を与えないよう記述したい。
- ・地域によって、外国人の部屋探しのハードルには差がある。
- ・積極的に部屋を貸す人がいることも事実だが、一方では、経験からか印象からかわからないが「外国人はマナーが悪いから」と門前払いする人がいることも事実である。
- ・不安を感じる相手に部屋を貸すことを躊躇うのは、相手が日本人であっても同じである。
- ・収入がない留学生は別として、来日して数十年きちんと働いている場合でも、門前払いされるケースがある。不安が払拭できるなら、むしろ審査が細かくても良いと感じる。
- ・地域のコミュニケーションを生む交流については、更なる情報発信の工夫が必要である。

3 その他

事務局から全体会等について説明があった。

4 閉会